



PostgreSQL のインストールおよび設定

この章では、PostgreSQL のインストールおよび設定について説明します。

- [PostgreSQL データベースのインストール, 1 ページ](#)
- [PostgreSQL リスニング ポートの設定, 3 ページ](#)
- [ユーザ アクセス制限の推奨事項, 4 ページ](#)

PostgreSQL データベースのインストール

はじめる前に

- シスコでは、PostgreSQL DBA が PostgreSQL サーバをインストールして保守することを推奨しています。
- [セキュリティの推奨事項について](#) の項で PostgreSQL データベースのセキュリティの推奨事項をご覧ください。
- サポートされているバージョンの詳細については、[外部データベースの設定の要件](#) を参照してください。

手順

ステップ 1 次のコマンドを入力して、Postgres のユーザとしてデータベース サーバにサイン インします。

```
>su - postgres
```

```
>psql
```

ステップ 2 新しいデータベースユーザを作成します。次の例では、*tcuser* という名前の新しいデータベースユーザを作成しています。

```
#CREATE ROLE tcuser LOGIN CREATEDB;
```

(注) PostgreSQL バージョン 8.4.x を展開する場合、手順のこの時点では、データベースユーザをスーパーユーザとして設定する必要があります。次に例を示します。

```
#ALTER ROLE tcuser WITH SUPERUSER;
```

ステップ 3 データベースを作成します。データベースに ASCII 文字のみが含まれる場合、SQL_ASCII の符号化でデータベースを作成します。データベースに ASCII 以外の文字が含まれる場合、UTF8 の符号化でデータベースを作成します。
次の例では、*tcadb* という名前の SQL_ASCII データベースを作成しています。

```
#CREATE DATABASE tcadb WITH OWNER tcuser ENCODING 'SQL_ASCII';
```

ステップ 4 データベースへのユーザ アクセスを設定します。*install_dir/data/pg_hba.conf* ファイルを編集して、*postgres* ユーザと新しい *tcuser* ユーザがデータベースにアクセスできるようにします。次に例を示します。

# TYPE	DATABASE	USER	CIDR-ADDRESS	METHOD
host	tcadb	tcuser	10.89.99.0/24	password
host	dbinst	mauser	10.89.99.0/24	password
local ¹	all	all		Trust または MD5

¹ Unix ドメイン ソケット接続のみ。

ステップ 5 次のコマンドを入力して、*postgres* ユーザと *tcuser* ユーザのパスワードを定義します。

```
#ALTER ROLE postgres WITH PASSWORD 'mypassword';
```

```
#ALTER ROLE tcuser WITH PASSWORD 'mypassword';
```

(注) IM and Presence サービスで外部データベースエントリを設定する場合は、データベースユーザのパスワードを入力する必要があります。

ステップ 6 PostgreSQL バージョン 8.3.7 またはそれ以降の 8.3.x リリースを実行している場合は、*tcuser* の権限をスーパーユーザに変更して、このユーザにデータベースへのアクセスを許可します。次のコマンドを入力します。

```
#ALTER ROLE tcuser WITH SUPERUSER;
```

ステップ 7 リモートホストからのデータベースへの接続を設定します。*install_dir/data/postgresql.conf* ファイルで *listen_addresses* パラメータを編集します。次に例を示します。

```
listen_addresses = '*'
```

ステップ 8 PostgreSQL バージョン 9.1.1 を実行している場合、*postgresql.conf* ファイルに次の値を設定する必要があります。

```
escape_string_warning = off
```

```
standard_conforming_strings = off
```

ステップ 9 PostgreSQL サービスを停止し、再起動します。次に例を示します。

```
/etc/rc.d/init.d/postgresql-8.3 stop
```

```
/etc/rc.d/init.d/postgresql-8.3 start
```

(注) PostgreSQL サービスを停止および開始するコマンドは、PostgreSQL リリース間で異なる場合があります。

ステップ 10 次のコマンドを入力して、`postgres` ユーザとして新しいデータベースにサインインし、PL/pgSQL を有効にします。

```
>psql tcmadb -U postgres
```

(注) 次の例のセミコロンまでは 1 行で入力する必要があります。

```
#CREATE FUNCTION plpgsql_call_handler () RETURNS LANGUAGE_HANDLER AS '$libdir/plpgsql'
LANGUAGE C;
```

```
#CREATE TRUSTED PROCEDURAL LANGUAGE plpgsql HANDLER plpgsql_call_handler;
```

トラブルシューティングのヒント

`install_dir/data/postgresql.conf` ファイルでは、次の設定項目をオンにしないでください (デフォルトで、これらの項目はコメントアウトされています)。

```
client_min_messages = log
```

```
log_duration = on
```

関連トピック

[セキュリティの推奨事項について](#)

PostgreSQL リスニング ポートの設定



(注) この項の設定はオプションです。

デフォルトでは、Postgresql データベースはポート 5432 で待機します。このポートを変更する場合は、`/etc/rc.d/init.d/postgresql` で `PGPORT` 環境変数を新しいポート番号で編集する必要があります。



(注) `PGPORT` 環境変数は `/var/lib/pgsql/data/postgresql.conf` ファイルでの「ポート」パラメータ値を上書きするため、Postgresql データベースを新しいポート番号で待機させるには、`PGPORT` 環境変数を編集する必要があります。

手順

ステップ 1 `/etc/rc.d/init.d/postgresql` で `PGPORT` 環境変数を新しいポートで編集します。次に例を示します。
IE: `PGPORT=5555`

ステップ 2 次のコマンドを入力して、PostgreSQL サービスを停止し、開始します。

```
# /etc/rc.d/init.d/postgresql start
# /etc/rc.d/init.d/postgresql stop
```

ステップ 3 次のコマンドを使用して、Postgresql データベースが新しいポートで待機していることを確認します。

```
'lsof -i -n -P | grep postg'
postmaste 5754 postgres 4u IPv4 1692351 TCP *:5555 (LISTEN)
```

ヒント IPv6 サーバの場合は、`postmaste 5754 postgres 4u IPv6 1692351 TCP *:5555 (LISTEN)` と入力します。

ステップ 4 ポート変更後にデータベースに接続するには、`-p` 引数を使用してコマンドで新しいポート番号を指定する必要があります。コマンドに `-p` 引数がない場合、Postgresql データベースはデフォルトポートの 5432 の使用を試行し、データベースへの接続は失敗します。次に例を示します。

```
psql tcmadb -p 5555 -U tcuser
```

ユーザアクセス制限の推奨事項

外部データベースへのユーザアクセスを、特定のユーザや IM and Presence サービスが使用するデータベースインスタンスのみに制限することを強く推奨します。<install_dir>/data ディレクトリにある `pg_hba.conf` ファイルで、PostgreSQL データベースへのユーザアクセスを制限できます。



注意

どのようなユーザでも任意のデータベースにアクセスできるようになってしまうため、ユーザとデータベースのエントリには「all」を設定しないでください。

また、外部データベースにユーザアクセスを設定する際に、データベースアクセスに、「パスワード」方式を使用して、パスワード保護を設定することも推奨します。



(注)

IM and Presence サービスでデータベース エントリを設定する際には、データベース ユーザのパスワードを入力する必要があります。

次に示すのは、`pg_hba.conf` ファイルでセキュアなユーザアクセスを設定する例と、それほどセキュアではないユーザアクセスを設定する例です。

セキュアな設定例：

# TYPE	DATABASE	USER	CIDR-ADDRESS	METHOD
host	dbinst1	tcuser1	10.89.99.0/24	password

host	dbinst2	mauser1	10.89.99.0/24	password
------	---------	---------	---------------	----------

それほどセキュアではない設定例 :

# TYPE	DATABASE	USER	CIDR-ADDRESS	METHOD
host	dbinst1	tcuser1	10.89.99.0/24	trust
host	dbinst2	all	10.89.99.0/24	password

それほどセキュアではない設定例での注記 :

- 最初のエントリでは、データベースにパスワード保護がありません。
- 2 番目のエントリでは、どのユーザもデータベース “dbinst2” にアクセスできます。

関連トピック

[PostgreSQL データベースのインストール, \(1 ページ\)](#)

[PostgreSQL のマニュアル](#)

